

2003.07.18：市民教育委員会

委員長

それでは、「若手芸術家の育成・創造に向けた支援のあり方について」、「震災対応力向上を図るための市民指導について」及び「新天文台整備事業について」であります。また、「新天文台整備事業について」は、次回に審査を行いたいと思いますので、本日は、「若手芸術家の育成・創造に向けた支援のあり方について」及び「震災対応力向上を図るための市民指導について」審査したいと思います。

なお、消防局より、説明はパワーポイントを使用して行いたいとの申し出があり、承諾いたしましたので御了承願います。

それでは、まず、市民局より説明願います。

池田友信委員

後ほど、改めて伺いしようかなと思ったんですが、ちょっとこの際ですからお聞きします。

最近見たテレビ番組で、オランダのシーボルトが、日本の滞在期間に日本の文化の水準の高さに非常に共感を感じて、西欧先進国が文化的に一番高いと思ったのに、日本を見たら、それはもう大変な文化の高い国であるということで、当時、開国を迫っていたアメリカのペルー艦隊の艦長に、武力で開国を迫るのではなくて、ぜひ日本のこの文化の高いものを守っていきたいと、こういうことでいろいろ手紙でやりとりし、武力でなくて開国を、和解をもってなし得たという、そのシーボルトが影の力であるということを紹介した番組があったんですが、改めて日本の文化の高さというものを、ぜひこれを誇りに持って、特に仙台なんかも非常に文化の高い部分がありますから、そういうものに対する若手の育成ということについて、これから我々議会も、行政側も、その環境づくりをどういうふうにしたらいいのかということ、これはもう真剣に考える必要があるなというふうに私も感じた次第であります。したがって、そういう意味で市の執行部の方としてもいろいろ部局を変えて、文化を高めていくための、そういった行政の運営に努力されていること、これは敬意を表したいと思っておりますが、そこで振り返りますとですね、環境の状況と市民の文化のレベルを比較することを考えた場合に、仙台市は政令都市ですから、政令都市の他都市と比較してどれだけ文化の環境なり、あるいは取り組む芸術文化の若手の人たちが、どういうふうな環境で仙台市として今あるのかということ、これを十分判断をする中で、これから行政側として、その対処が私は必要だというふうに思っております。

環境については、発表の場がいろいろ今報告がありましたように、エル・パークとか泉文化総合センター、あるいは青年文化センターといろいろありますが、特にメディアテークという新しい発表の場が出ておりますが、それまでの間は非常に長い間、政令都市の文化発表の環境といいますと、ちょっとはつきり言いますと劣悪な状況であったということは否めない事実であると思います。

そこで、環境がこれまでそういうふう整備されなかった状況の背景にはですね、やはりそういった団体育成とか、活動の組織関係含めてですね、育てる機会が遠のいていたというふうには私は感じるんです。それを一番感じるのは、県に対しては芸術関係の団体、そういう方たちがいろんな行政と常に表裏一体となって文化施策について取り組んでいく宮城県芸術協会というのがあるんですが、仙台の場合は、そういった仙台市と対等に話し合う芸術団体というのが育っておりません。いわばここをずっと見ますとですね、各部門ごとにはあるんですが、その全体を網羅した形で常に仙台市の文化施策、これに対して施策を述べたり、意見交換をしたり、あるいはそういうことに対するいろんな提案をする、相談に乗って話し合いをするという、そういう団体を育て得る状況にならなかったというのが私は現状だと思います。したがって、箱物だけじゃなくて、これからはこういった個人の若手を育てると同時に、やはり常に仙台市の芸術関係の環境はこれでいいんですかと、あるいはいろんな意見があったらぜひ出してください、そしてぜひ一緒になってやりましょうという、こういうふうな運動団体をですね、やはり枠をきちんとつくることが、私はこれからの政令都市の中では必要だと思うんです。

したがってですね、そういう意味での対策をこれからどんな形で取り組んでいこうかということが、私はこれからの仙台市の文化行政の中で一番大きな必要なことではないかなと思うんです。箱物だけじゃなくて、そういった活動をするための、運動をする市民団体をふやすという、それもジャンルを越えて統合した形でいかにしてつくるかということの方針をぜひ打ち出すべきだと思うんですが、まずそれに対してお考えがあったらお聞かせいただきたいと思いません。

文化スポーツ部長

運動する団体をつくる必要性ということでございますけれども、県の芸術協会は御案内のとおり大きな団体でございます、この団体につきましても、仙台市も補助をしたり、かわりを持っておるところでございますけれども、県の芸術協会の構成メンバーをひもといてみますと、大体6割5分から7割ぐらいが仙台市の方々ということでございまして、仙台市が改めて団体をつくろうと

いたしますと、この県芸術協会と全く重なってしまうと、こういったこともございまして、これまで仙台市はそれをつくらずに個別のいろいろなジャンルによりまして、御要求なり、施策提案というのは違ってまいりますので、それを個別に受けとめておったというのが実情でございます

それから、市民文化事業団ができて、そこでのさまざまな助成事業を通じまして、いろいろな団体のかた、あるいは個別の方々から意見を聞く機会を得ております。そういったことを通じて、これまで市民の皆様のお話、御意見を承ってきたというつもりでございますけれども、おっしゃいますようにその分野ごとのお話でございますので、それをトータルに見て施策提案というようなところまでは至っていなかったのかなという気もいたします。

ただし、文化事業団の中にも、理事会なり評議委員会というのがございまして、この中でもさまざまな御意見を承ってきたという事実がございますので、そのような方針でこれまでまいったというところでございます。

池田友信委員

きょうはいろいろ前段的な質問で終わりたいと思いますが、やはり仙台市の行政側としても、県のそういう団体を活用せざるを得ないというか、そんな形の対応であったと思うんです。しかし、県の芸術協会というのは県単位ですから、仙台市だけということの論議にはならなくなってくるわけですよ。しかし、仙台市は政令都市ですから、政令都市の文化行政というのは、ほかの足並みをそろえる—こんなこと言うと失礼かもしれないけれど、逆に郡部の方が今活発になってきていますけど、そういうところをちょっと認識をして、そして進めていくというのが県の文化行政であってですね、今や政令都市の仙台市としては、政令都市の横浜、名古屋、大阪、そういうところの文化行政環境と比較してどうなんだということを、それを含めて積極的にいろんな形で取り組んでいかなきゃいけないと思うんです。それが、先ほどもお話をしましたように、この文化というのは、もう都市づくり一つの大きな基盤でなければならない。名古屋においても、もう文化センターをつくって初めて副都心構想の一つの中心になっているという、そういう形でボストン美術館を、分室を誘致すると、こんなのが市の一つのまちづくりの施策として入ってるわけですよ。したがって、そういう形をするためには、そういう市の芸術団体と何をここでどうするかということは、常にちょうちょうはっしにですね、いろんな政策論議をしていないと、私はこれからの政令都市の文化行政というのは、やはり進むテンポが遅い状況になっていくと思うんです。それが、結果として相乗効果で県全体のレベルアップをすると、こういう形になっていくようにしていかななくてはいけないと思うんです。したがって、今までのの中では県の芸術協会に6割ぐらいいるからそ

ういう中で話し合うと、これで進めてきたということはやむを得ないと思うんですが、これからはやはり切りかえていくような感じが、私は必要ではないかなと。例えば、若手を育てるための発表の場は今ある会場だけでいいのかというと、もっと市民に開放された形の発表の場、機会、チャンス、環境をつくっていくことが必要ですよ。

特に、私は京都などに行くと、京都ではお寺を文化活動の発表の会場にしますから、どうぞ若手の方お申し出くださいと、こういうふうな文化活動で呼びかけしているわけですね。これはどこでやっているかということ、京都の文化協会というのがあるって、その文化協会はこういうふうにしてつくられたのということ、京都市の文化施設を提供いただいて、そして京都市がバックアップしてそういう活動団体をつくって、そういう環境活動でやるということを考えていくと。私は、これからやはり仙台市の方の行政単位の中での文化団体で、そこでどういうふうな意見交換をするかということが必要だというふうに思うんです。これからの中での検討をぜひ早くしていただいて、従来の進め方で芸術協会と、それからジャンル別の話し合いをするのかどうかですね。その辺も一つ十分検討していただきたいということをまず申し上げまして、今後のそういった団体の話し合いする場、そういう政策論議をする場、その辺をどんな形でこれからもっていくか、ちょっと考えがあったらお示しをいただいて終わります。

市民局長

現在までのそういった芸術関係の団体の方々と市の関係は、先ほど文化スポーツ部長が申し上げたとおりでございますけれども、お話のように、仙台市も政令市になって10年以上経過いたしまして、新たな文化行政というものを展開していく上で、お話のような団体の必要性というのものもある部分あるのかなと思います。基本的には行政の方から、こういう言い方がいいのかどうかわかりませんが、つくってくださいと働きかけて作りましても、やはりまず御自分たちでそういった団体の必要性というものを認識をしていただいて、しっかりと自分たちで運営していくというふうなお気持ちがあることが前提であろうというふうに考えます。

現在も、ある程度そういった団体の方々とはいろんな場面でお話し合いをする機会とか、そういったものがございますので、今、委員からの御指摘、御提案ありましたようなことも、団体の方ともいろいろ御相談をして検討してまいりたいというふうに思います。

以上でございます。